

復興に汗を流す現地職員



自爆テロ、米軍の迎撃、武装勢力の暗躍…戦争終結後もなお、砲弾の雨が降り止まないイラク。その復興を支援する国連ハビタットのイラク担当専門官として懸命な支援活動が続ける星野幸代さんに、復興の槌音が響くイラクの現状を聞いてみた。



砲弾の雨音を、復興の槌音で消し去りたい。



バグダットの
国連ハビタット職員と星野さん

福岡に大使館はない。が、世界3都市にしかない国連機関のひとつなら、ある。国連ハビタット福岡事務所がそれだ。アジア太平洋地域28カ国の「まちづくり」を支援する拠点として、スラム復興や都市インフラ構築などに取り組んでいる。イラクは本来管轄外の地域だが、同事務所が積極的に支援を続けている。担当専門官の星野さんは、現地事務所と密に連絡をとりながら建物や住居の被害を把握し、復興計画を策定して日本政府に諮る使命を担う。ヨルダンやクウェートの事務所には年に何度も飛ぶが、実はイラクへの入国歴はない。バグダットで起きた国連事務所爆破事件の影響で、外国人職員は入国差し止めになったままなのだ。「それが最大のジレンマですね」と星野さんは悔しがる。

「がれきの街、おびただしい死者：イラクと聞くと、ニュースで見る悲惨な映像しか思い浮かばない人もいます。でも、多くの人は私たちと同様に仕事をし、家族や友人と語りながら生活しているんです。ただ、戦争で壊れたままになっている家や学校があり、家族を失った人たちの苦悩が続いているのも事実。その復興支援活動の一翼を担う力として、私たちの活動が役に立てば…」と星野さん。現地に行けなくとも、復興の二文字にかける思いは現地のイラク人職員に負けないくらい、深い。思いの発端は、あの阪神淡路大震災。神戸市民として胸に刻みこまれた体験が、イラク支援へと続く人生を選ばせた。

「戦争だけでなく、戦後の略奪、長年の経済制裁による社会の疲弊と、さまざまな要因によってイラクの住環境は最悪の状況。でも復興が着実に進んでいるのも、まぎれもない事実です」

水道設備のない家に水を。劣化した住宅の再生を。学校を、ゴミ処理施設を、都市インフラを。復興支援に終わりは無い。

「空爆で壊された家が修復され、現地職員に。日本のみなさんよろしく」とメッセージを託す人もいます。もちろんバグダットをはじめ、いつ砲弾が飛んできてもおかしくないような町も少なくありません。危険も顧みずに頑張る現地職員の使命感には、本当に頭が下がります」と語る星野さんの瞳に、瞬間、復興に沸くイラクの人々の笑顔が映った気がした。

皆さんにとつて、ハビタットは 世界に直接開かれた窓だと思っ てらっしゃいます。

国連ハビタット親善大使 マリ・クリスティーンさん

親善大使としてのお仕事にはどんなものがあるのですか？

マリ・クリスティーン(以下M) ハビタットの活動を皆さんに知っていただくための活動です。私は日頃、さまざまなテーマをもつて仕事をしているのですが、たとえば日本のどこかの市町村でまちづくりの話をすると、ハビタットの活動にも触れる。

テレビ出演の際にも、胸にハビタットのバッジをつけて、話に盛り込んでみたり。もちろん親善大使としての講演活動なども多いのですが、枠にとらわれず、臨機応変にア



ピールするように心がけています。

広報プロデューサーを務められた愛地球博の会場にも日本ハビタット協会の展示ブースがありました。

M ええ、ハビタットのポスターも掲示しましたし、イラクやアフガニスタンでの活動を紹介する展示も会期中ずっと実施していました。それに何度か講演も。イラク担当の星野さんとのトークショーにも、たくさんの方が来ていただきましたよ。

親善大使をお受けになったのは2000年ですね。あらためておうかがいしますが、任命された際のお気持ちは？

M 都市計画やまちづくり、タイ山岳民族の子供たちのための学校建設、AWC(アジアの女性と子どもネットワーク)設立など、以前からさまざまな活動に関わっていましたから、まさにライフワークとしてびつたりな役目をいただいた、という思いでした。

ハビタットの使命はいわば世界規模のまちづくり、ですものね。

M ええ、特に発展途上国の。2020年には世界の7割が都市化するといわれる中、スラムの問題は深刻です。スラムの復興、スラム化しないための都市計画やまちづく



マリ・クリスティーン

アメリカ人の父と日本人の母を持つ。4歳まで日本で暮らした後、ドイツ・アメリカ、タイなど数カ国で生活。上智大在学中に芸能活動を開始。現在は諸外国で暮らした体験を活かした異文化コーディネーターとしても活躍の幅を広げ、ボランティア団体AWC(本文参照)を設立するなど、多彩なNGOに参加。2000年、国連ハビタット親善大使就任。現在も東工大大学院在学中で、博士論文に取り組んでいる。

りなど、ハビタットの役割は重要です。ただ「やってあげる」ではないんです。国連のポリシーはHelp them to help themselves. 一方的な援助ではなく、自分たちのことは自分たちでできるようにお手伝いをしましょう、という。：。そうでないと、自立した関係を築くことはできませんから。

「施し」ではないんですね。私たちにも、何かできることがあるのでしょうか。

M もちろんです。ご寄付でも、ハビタットカレンダーなどのグッズを買っていただくことでもいいし、HPを見て私たちの活動を知っていただくだけでもいい。アクロス福岡にあるハビタット事務所は、福岡で世界に直接開かれた数少ない窓のような場所。その窓を開けることが、世界につながる第一歩になると思うのです。

ハビタット・カレンダー2006 販売のお知らせ

日本ハビタット協会は、世界ハビタットデー記念絵画コンクールの優秀作品で構成した「ハビタット・カレンダー2006」を製作・販売いたします。収益金は、国連ハビタット福岡事務所の「災害・紛争後のまちづくり」再建復興事業に使用されます。

◎販売価格：1部1,000円
(送料・消費税込)
問合せ先：特定非営利活動法人
日本ハビタット協会福岡支部
電話番号：092-724-7121
担当：佐伯

